平成30年度・令和元年度
姶良・伊佐地区指定研究協力校
「小中連携」研究公開
湧水町立栗野中学校

1　研究主題

一人ひとりの生徒を確実に伸ばす小中連携の在り方
～S.O.S（スモール・ワン・ステップ）の構築～

2　全体会（研究発表）

栗野中学校では，平成30年度からの２年間，地区指定研究協力校として研究・実践を進めてきました。

音楽部による素敵なリコーダー演奏で幕を開けた全体会では，小中共通実践事項に基づく取組を中心に，教科の系統性を意識した学習指導やあいさつ運動など教育活動全般にわたる取組と，その成果と課題が示されました。

【全体会　研究発表の様子】

入学説明会において実施した中学校に関するアンケートの結果から中一ギャップ解消のために研究・実践を深めていった多様な取組は，他校に大変参考となるものでした。今後，更に教師間，生徒児童間といった人と人との交流の機会を増やし，小中９年間で栗野の子どもたちを育てていく環境づくりに努めていきたいとの説明がなされました。

なお，研究の内容は以下のとおりです。

【研究の実際】

仮説１　小中で共通の学習のきまりや進め方を実践することで，安心して学習に取り組めるようになるのではないか。

・　各教科での小中共通の取組（振り返り，学習形態，ノートのとり方等）

仮説２　教員相互の授業への乗り入れや交流，児童・生徒の各小・中学校で活動する場面を設定することで中学校入学後の姿をより具体的にイメージし，中学校への進学の不安を軽減できるのではないか。

・　出前授業，授業参観，授業体験等

仮説３　小中が共通して取り組める生活面でのきまりやルールを作成することで，基本的な生活習慣を中学校入学後の早いうちに確立できるのではないか。

・　小中で連携した共通実践事項（あいさつ，早寝・早起き等）

３　公開授業

１年生と２年生の数学科の授業と３年生の保健体育科のダンスと柔道の４つの授業が公開されました。

１年生の数学科の授業は，松山和朗教諭が作図を利用した宝探しの授業を行いました。２年生の数学科の授業は，山口あゆみ教諭が一次関数を利用して華氏と摂氏を変換する授業を行いました。どちらの授業も地域や日常の場面等生徒に身近な事象をもとに構成し，めあての提示やノートのとり方等，小学校での学習指導を生かした授業を展開しました。

３年生の保健体育科は，鎌田隼人教諭がダンスの授業，青柳美希教諭が柔道の授業を行いました。どちらの授業も楽しそうに運動する生徒の姿が見られました。また，協働的に活動する場が意図的に設けられており，肯定的な雰囲気の中で，積極的に教え合い，学び合う姿が印象的でした。写真にあるように，ＩＣＴ機器も効果的に活用し，それぞれの技能の高まりや変容をその場で確認し，アドバイスに生かしていました。オリジナルの評価表を作成するなど，運動量を確保するための工夫も随所に見られました。

【１年数学科の授業】

【２年数学科の授業】

【３年ダンスの授業】

【３年柔道の授業】

４　分科会

教科ごとに分かれた分科会では，「一人ひとりの生徒を確実に伸ばす指導の工夫」と「小中連携を深めるための手立ての工夫」という２つの視点について，グループごとに協議を進めました。授業者は各グループを渡り歩き，出された質問等に答えながら，一緒に協議を深めていきました。小学校の先生方も多く参加されており，中学校の先生方との意見交換・情報交換の場にもなっていました。

以下，参加者の感想（抜粋）です。

- 中一ギャップについての説明が詳しくあり，小中連携の大切さを感じた。小学校の学習内容をしっかりと身に付けさせることで，安心して中学校へ行けるようにしていきたい。
- 学習のルールが確立されており，安心した環境の中で一人一人が学習に取り組み，課題を解決していました。導入がよく，生徒が十分興味をもって取り組んでいました。
- 生徒が単元を通して，技術的な面はもちろんですが，主体的に対話している姿が印象的でした。